

組織内議員としてとらえる自治研活動

島根県本部／益田市職員労働組合・組織内議員 平原 祐一

1. 自治研とは

自治体の業務と住民の要求の乖離を明らかにする活動。本来住民を守るべき制度が制度改悪によって、自治体労働者が住民を苦しめる業務に携わらなければならないことがある。労働組合として打開の方向を考え、それを住民と共有し、改善をめざす運動の方向性を明らかにしていくことが重要であり、その取り組みが自治研活動だと理解している。

(1) 自治研活動と政治闘争は似ている……。でも難しい。

自治労の組合員、役員として様々な運動に取り組んできた。政治闘争もその中の一つである。政治闘争ほど、大衆に対して我々自治労の考え方を伝えることができる場面はないとも思っていた。政治闘争こそが自治研と思っていた。しかし、非常に難しかった思い出も大きい。なぜか。

労働組合のめざす社会が、今の体制に抗う事、反対する内容が多いことは皆さん理解できると思う。例えば平和や人権、社会保障制度の充実など、今の政府に反対や改善を求めることが多い。しかし、自治体では国が進めていること、その法律や制度に基づいて仕事をする。基本的に国を通じて降りてきた方針に従った業務以外ありえない。福祉にかかわる法律、農業に関する法律、防衛・安全保障にかかわる法律、それに反対する意思を示す組合である一方、業務として法に従った仕事をするという葛藤は以前からあった。これを住民に伝え、ともに改善に向けて取り組むことが「自治研活動」なのだろう。

しかし、政治闘争を行う上で、「業務ではこうすることしかできないが、本来はこうあるべき」と割りきってやっていた部分もあったが、役員として組合員にその運動を提起する際、やはり理解してもらい難しさはあった。「法律や制度のとおりやらねばならない。それが仕事」という職員としての思いも当然理解できるからだ。

(2) 自治研活動の延長としての議員活動

現在、市役所職員を退職して市議会議員となっている。自治労出身の議員として、自治労、労働組合のめざす社会はこうだということを住民に発信できる立場となった。自治体職員としての立場、法に基づく業務をしなくなったことから、ある意味、やりやすくなったことは事実である。

毎議会ごとに、日常的に市民が困っていることや、課題について取り上げること、また、いろいろな職種で働く人のおかれている状況を取り上げることで、問題提起できている。また、それら一般質問の内容や、現在置かれている政治の状況、ニュースで取り扱われるもの、取り扱われないものに対する自分の意見を記載した「議会報告」を地域住民や支援者、支援団体等に配布することを続けてきた。

本来はこうあるべきということを示し、地域住民と話し合い、また、行政にそのことを伝え、制度の改善を求める。労働組合における自治研活動を、議員として取り組んでいると認識している。

この間取り扱ってきた一般質問の内容

2019年9月 「不妊治療について」

2019年12月	「障がい者差別解消条例の制定について」
2020年 3月	「ますだ食と農の基本計画について」
2020年 6月	「医療・福祉政策について」（医療体制・病床数の減少問題）
2020年 9月	「介護・障がい者福祉従事者の人材確保について」
2020年12月	「市における障がいのある方の雇用について」 「会計年度任用職員制度について」
2021年 3月	「人と人がつながり、支え合うまちづくりについて」（随意契約のあり方） 「SDG sの推進について」 SDG sと貧困問題、SDG sと生活環境、動物との共生（地域猫活動）
2021年 6月	「教員の働く環境について」 「地域共生社会の実現について」（ヤングケアラー問題）
2021年 9月	「ひきこもりについて」 「新型コロナウイルス対策について」
2021年12月	「主権者の政治参画について」 「通学支援のあり方について」（通学路の危険箇所、危険動物） 「市役所の障がいのある方の雇用について」
2022年 3月	「地域行政サービスの在り方について」（総合支所の廃止） 「新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害問題」 「益田市手話言語条例制定後の取り組みについて」
2022年 6月	「避難行動要支援者制度について」「小児科医の減少対策について」
2022年 9月	「教員の人員不足について」「随意契約のあり方について」
2022年12月	「手話言語条例の推進について」
2023年 3月	「自死対策について」
2023年 6月	「地域公共交通のあり方について」
2023年 9月	「市議会議員選挙の投票率について」 「こども基本法に基づく取り組みについて」
2023年12月	「有機農業の推進について」「学校給食について」「教員の働く環境について」 「地域公共交通のあり方について」
2024年 3月	「地球温暖化対策実行計画について」「障がい者福祉について」 「地域公共交通について」
2024年 6月	「重層的支援体制」「重症心身障がい児者」 「動物愛護について」（地域猫・不妊去勢手術助成）

2. 住民とともに活動。主体的にかかわる人が増えてほしい。

この間、自分の考え方、労働組合の考え方を周知することを目的に、議員活動を取り組んできた。それに加えて、これからは、そのことを一緒に進める人や、自ら発信する人をつくっていくことに重きを置く必要があると考えている。自分以外にも地域と一緒に取り組める人を増やすこと。

そして、地域住民が主体となって社会に関わる、街づくりに関わる、ひいては政治に関わる人となってほしいと思っている。

強く思ったのは、近年の投票率の低さ。身の回りの生活実態、生きにくさ、息苦しさ、その原因が政治によってきめられていることに気づいていない証拠であると思った。

もっと自分の困っていることや逆にやってみたいことなどを表現すべき、表現してもいいという実感がなければ、その根本原因となる政治を変えていこうなどにはつながらない。つなぎようもない。

地域に対して、大人にも、子どもにも、「やりたい」を実現しよう、「困っている」を表現しようと

発信するようになっていった。

地域住民と取り組んだ内容の一例をお示しする。

(1) 地域住民と一緒に取り組む「夢見る小学校」上映に向けて

雪の降る日の朝、いつもの小中学生の登校見守り活動を行っていたところ、傘を差した女性が近づいてきて、「ひらはらきーん。ここにいけば会えると思ってきました！」

話を聴くと、先日見た、学校教育に関する映画が、すごく良かったとのこと。今の教育に対する問題提起をしているので、ぜひこの地域でも上映したいとのこと。その映画とは「夢見る小学校」。

映画「夢見る小学校」の紹介

1992年設立の学校法人きのくに子どもの村学園。ここは文部科学省の学校教育法に準じた正規の学校法人として県知事が認可した、自由な私立学校。子どもの村では、感情、知性、人間関係のいずれの面でも自由な子どもに育つために、自己決定・個性化・体験学習を原則にしている。学習計画や行事の立案は子どもと大人の話し合いで決定し、個性や個人差を尊重。本の勉強よりも、実際に作ったり調べたりする活動が重視され、プロジェクトと呼ばれる体験学習が時間割の半分を占めている。子どもたちは自分たちでプロジェクトを運営し自らの頭で考えており、体験学習に夢中な子どもたちであふれている。子どもの村のスタッフは口を揃えて、楽しくなければ学校じゃない、と言う。そんなきのくに子どもの村学園にオオタヴィン監督が1年間密着。また、1956年に成績通知表が廃止され、固定化された時間割やチャイムがない、体験型総合学習を続ける公立小学校、伊那小学校や、2010年から10年間世田谷区立桜丘中学校の校長を務め、定期テストを廃止し校則を3つまでに減らすなど任中に子どもファーストの視点で学校を改革した西郷孝彦先生を取り上げる。

映画は、教科書に書いてあることが一番ではなく、自らが主体的に学ぶ「探求学習」に重きを置いた学校。そういう学校がすぐに作れなくても、子どもの「やりたい」を実現できる地域にしたい、そのためにまずは「大人のやりたい」を形にという思いでチーム「夢見る西益田実行委員会」を立ち上げ、映画上映に向け協議を重ねてきた。みるみる賛同者が増え、実行委員会のメンバーも学校保護者、保育園の先生、公民館主事、などなど、充実していった。

映画「夢見る小学校」の上映



Facebookより

映画「夢みる小学校」を紹介します！ まず、こどもが幸せであること、すべてはその後に続くこどもまんなか社会を進めていくにあたり、キーワードとなる言葉です。この映画を見た人が、「自分以外にも、たくさんの人に見てほしい！」と思い、私も含め、その熱い思いに動かされたみんなで上映会を企画してきました。何かと走り続ける毎日をもう一度見つめ直す機会に。大切にしたいものは何？ 答えが見つかるかもしれません。たくさんの方のご来場をお待ちしていますー！！



Facebookより

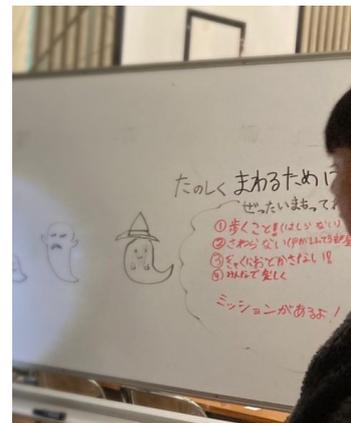
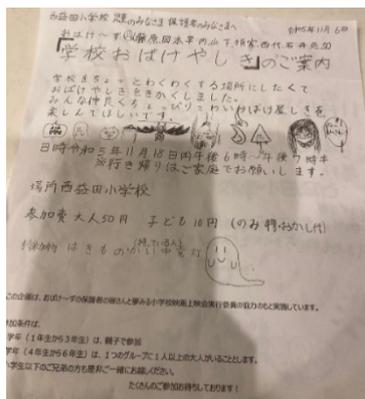
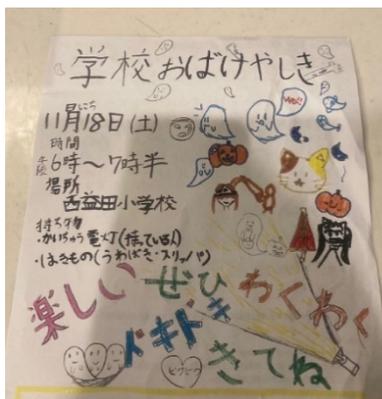
「夢みる小学校」上映会 開催しました！ 本当にたくさんの皆さんが来てくださいました。探求学習の素晴らしさ。自由があればこどもは成長する。世の中は問いで満ち溢れている。たくさんのキーワードを見つけることができました。決められたカタからはみ出ることが許されない社会。時間はかかるかもしれませんが、見つめ直すキッカケをもらいました
主催の夢みる西益田実行委員会は「やりたい」を実現したいと集まったメンバー
それは大人もこどもも関係ありません
次のワクワク、次のやりたいに向けてたくらみは続きます……
見に来ていただいたみなさん、ありがとうございましたー！

(2) 次は子ども達のやりたいを実現。「学校お化け屋敷」開催

子ども達からも「こんなことをやりたい」の声が上がるようになってきた。「コロナでいろいろ我慢してたから、みんなを楽しませたい、驚かせたい、ドキドキを届けたい」ということで、「学校でお化け屋敷」を行うことに。基本的に主体は子どもたち。夢見る西益田実行委員会は後方支援。

子どもたちの意見を聴き、どんなお化け屋敷にしたいか、子どもだけでの話し合い、大人を交えての話し合いを行い、「準備するものは何か」「どの教室を使うか」などを検討。

「学校お化け屋敷」を開催することができた。





Facebookより

西益田小学校の4年生女子たちが、「みんなにドキドキを届けたい」を企画！ 夢みる西益田実行委員会と一緒にその「やりたい！」を形にしました!! 夜の学校はそれだけで怖い～

こどもと大人と一緒に手作りでおばけ屋敷を作りました。手作りのチラシを配布し、たくさんのみなさんが来てくれました。予定時間をオーバーするほどの盛況ぶり！

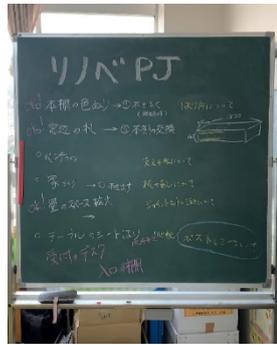
怖すぎて悲鳴をあげる子も!?

みんなで話し合っ、ぶつかって、ちょっとできないことは大人のサポートもありましたが、それでもみんなの「やりたいこと」ができたことは、すごいこと

関わってきた我々大人たちも感動しましたよ!!

(3) 次々にやってみたいが増えていく。主張する子ども、大人たち。

図書室をリノベーションしたい！ くつろげる図書室に。横になって本が読みたい！ 狭い空間で本が読みたい！ そんな図書室にしたい！ 「夢見る図書室リノベーションプロジェクト」。





Facebookより

夢みる図書室リノベーションプロジェクト！ 図書室をもっとわくわくする空間に！ ということで、小学校の図書室をリノベーションしてみました。どんな図書室にしたいか。大人と子どもでゴソゴソ企み、実現しました。

はじめは小さな集まりでしたが、DIYが得意そうな親御さんたちにも声かけして……地域の人にも力をかりて……いつしか大人数です！ 素晴らしい！

子どもたちも作業に参加し、はじめは謎の機械に「？」でしたが、すぐに使い慣れてました。すごいです。また引き続きワクワクする図書室、ワクワクする何かに取り組んでみたいですね。子どもたちが喜んでくれると嬉しいです！

(4) 「やりたい」が続いていく。

図書室を「学校のくつろげる空間」から「地域のみなさんの憩いの場」にしていきたい。「気軽に来れるカフェが地域にない……。」「コロナ禍で希薄になった地域のつながりを取り戻したい」地域のおばさまたちの願いを形にする取り組み。夢見る西益田実行委員会の取り組みは続く。

「としょカフェ」の開催。コーヒーやその他飲み物と、軽食を提供してみた。

来ていただいた地域の方は「こんな場所があるとうれしい」「続けてほしい」

子ども達の憩いの場から、地域のみなさんの憩いの場へと変貌を遂げる。以降、毎月実施中。



Facebookより

図書カフェ開催されました

以前リノベーションした、西益田小学校の図書室がカフェに！

本当にたくさんの方々が来てくれました。

おしゃべりする人、ゆっくり本を読む人、どう楽しんでもオッケイです

なかなか出かけることもないのでうれしいなど、ありがたい声がたくさん聞こえてきます

久しぶりに会う人、初めて会う人、いろんな人との繋がりを見ることができました

赤ちゃんが登場した時は、みんなで大騒ぎ！

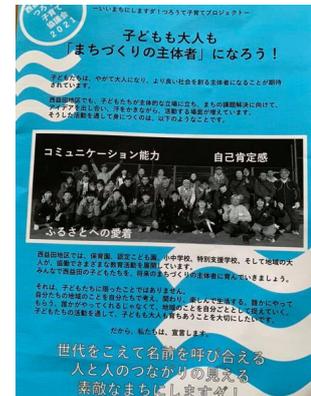
コロナで人に近づくことさえ許されなかったことを思い出すと、少しずつ戻ってくる日常に喜びを感じます

こうやって繋がれること、楽しかったと言ってもらえる活動をこれからも考えていきたいですねー

(5) 地域のスローガンも、子どもも大人も「まちづくりの主体者」になろう

地域で子どもを育む取り組みである、つろうて子育て協議会会長へ。

コミュニティースクールを進める西益田小学校において、学校運営に関わることができている。



(6) いよいよ教育の現場へ。子どもも社会の主体者となるために、主権者教育を進める！

「こんなことをやりたい」「社会のこんなところがおかしい」「こんなことで困っている！」など、主張できる人になってほしい。願いを込めて小学校の社会科の授業へ参加。

社会科では政治について勉強する授業を行うとのこと。教員と相談して、国会の仕組み、内閣の仕組みなど勉強する際、市では、市議会はどうなっているの？ 地元の議員に聞いてみよう！ という流れを作っていた。

伝えたいのは、自ら発信することの重要性。ひいては社会への参加、政治への関心を高めてもらうこと。こども基本法の趣旨を伝え、どんどん言いたいことを言ってほしい！ と伝えた。





Facebookより

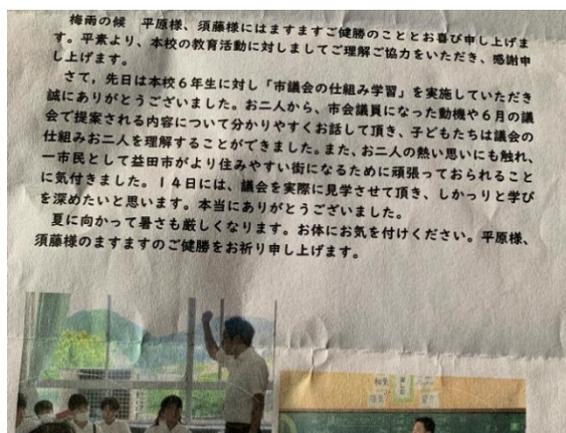
西益田小学校6年生の社会の事業へ登場～

国会や内閣の仕組みをちょうど習っている中で、じゃあ益田市ってどういう仕組みになっているの？ 地元の市議会議員に聞いてみよう！ ということで、須藤議員と一緒に邪魔いたしました。国では国会や国会議員、各省庁の役割、市では市議会や市議会議員、市役所の役割。

仕組みを説明する一方で、なぜ市議会議員になったの？ どんなことをしているの？ どうやって市民の声を聞くの？ などなど。嬉しいことにいろんな質問が飛んできます！ みんなの生活のことが決められていく「政治」に少しでも興味を持ってもらえれば嬉しいです。

そして自分から改めてみんなに伝えたことは、「こども基本法」によって、子どもに関わることは子ども自らが主体となって、意見を言えること、そしてそれを聴かなければならないことが定められていることです。「もっとこうだったらいいのに!!」をしっかりと話し合っ、伝えて、少しでも自分たちの身の回りの社会が変わることを経験してほしい。そのことが、自分たちの未来を諦めないことや、将来の政治への参画につながると信じています！

子どもたちからの感想



(7) 小学生、実際に議場へ見学ツアーの開催

ちゃんと発言しているかチェックされる！ 子どもたちからは「おっちゃん……緊張してたね。でも頑張って伝えてたね」の声。これらの経験を通じて、政治を身近に感じてほしい。



Facebookより

主権者教育の続き……

小学校6年生が本会議場へ見学に来てくれました

一般質問の内容は専門用語が多く、子どもにとっては難しかったかもしれませんが、みんな、静かに、しっかりと聞いてくれました

自分たち議員の発言する姿を直接見ることで、こないだ話してたことは本当に市に伝えられたんだとわかってもらえていたら嬉しいです

そして、子どもたちも同じように、身近なことについて話をして、学校や地域に伝えてほしいと思います

子どもたちも地域の主体者です

自信を持って、やりたいこと、変えていきたいことを発信していきましょう！

